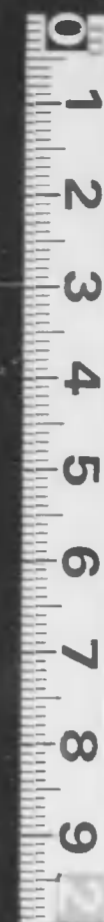


週寫
報眞

情報局編輯
十月廿八日第二十四號



陣頭に立つ隊長の命令は

千人の兵士を悉く英雄たらしめる

率先身を以て範を示す殉國の大號令ゆゑにこそ

銃後に上下一體、鋼鐵の團結を結ぶもの

それを「陣頭に起つ長」と呼ぶ



社長を陣頭に

近代の戦争が單なる武力戦でなくして、生産戦、思想戦等の總力戦であることはいふまでもありませんが、特に大東亞戦争においては、何しろ相手が資源や勞力を豊富に持つてゐる米英との長期戦であるので、生産戦の如何といふことが勝敗を決する大きな要素となつてくることは疑ひもないことです。したがつてわれわれは武力戦は勿論ですが、この生産戦にも打ち勝つて戦争を飽くまでも勝ち抜かねばなりません。

今日アメリカの生産擴充はいよ／＼本腰になつて大體豫定通りに進捗してゐるといはれてゐます。飛行機は本年の生産目標が六万機、來年度は十二万五千機、船舶の建造は重量トンで本年度八百万トン、來年度は一千五百万トン、戦車は本年度四万五千臺、來年度は七万五千臺等の他種々兵器の製造目標が、或ひは天文的數字といはれるかも知れないが、とにかく彼等がこの目標に向つて全力を傾倒してゐることは事實です。

しかし彼らが造ればわれもまた造つてゐるのです。このことは鈴木企業院總裁の談話にもありましたやうに、「大東亞戦争勃發直後の最悪なる生産條件にあつた今年の一月、二月、三月と順次豫定以上の増産成績をあげた」といふことによつても明瞭です。これはわが産業を経営する人と使はれてゐる者が、第一線の將兵が血みどろになつて戦つてゐるやうに、工場においては社長や重役、部長と成り、勞務者はこの部長の後に、ついで、足りないものを足するやうに動かして遂に無二に増産に勵む生産現による、賜であります。アメリカの生産量が巨大であるからといつて、それによつてわが競争意思といふものが直ちに脅かされるものではありません。戦ひは現の戦ひです。乏しい資源を以て豊富な資源との生産戦に打ち勝つためには、わが陸海軍の將兵が一を以て十に當り、倒れて後已むの氣概、つまり工場においては、あらゆる困難を排して「よしやるぞ」と、魂のこもつたハンマーを振り上げ、敵のハンマーをたゞきつぷす氣魄が絶対に必要です。躍動する魂のあるところ物の絶対量はさして比較にはなりません。

全國のわが産業陣営は、開戦以來この意氣を以て増産に増産を續けて來たのですが、開戦一周年を間近かに控へるこの秋、これになほ一層の拍車をかけ、社長を陣頭に最後の五分間まで戦ひ抜く氣概に燃えて生産能率増進運動を展開してゐます。

抱り合つた手に温い心が交流する。敵命しながらも部隊長はつねに部下を信頼し、部下に感謝してゐるのだ。東京機器製作所 徳吉社長（右）

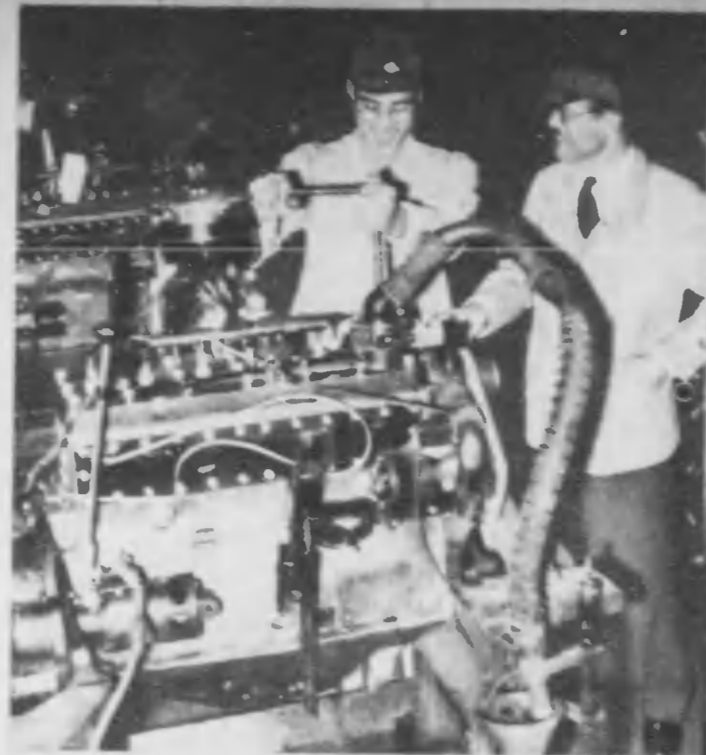
「時の立札」は他へ轉載その他に無利用下さい



社長 原 浅

市 濱 横 社 會 式 株 車 動 自 産 日

マレー作戦でもフィリピン作戦でも軍車の機動力は勝利の要因だつたし、今日なほ滿洲に支那大陸に、南方諸地域に輸送の第一線を確保してゐるのは日本のトランプだ。日本の自動車工場はフォードや、シボレーを向ふにまはして必勝生産の布陣は固い。こゝ日産自動車の組立工場には早くも作業衣の社長浅原源七氏を陣頭に工員一丸、新鋭車が續々生産されていく



今日このエンジンが出来るまでには前線の経験を
もととして幾多苦心の改良が施された

自動車月産〇〇台

あとは細部の取付けを残すだけだ、精密な過程で正確な速度で新車がどん／＼生産されていく

社長を陣頭に

「われ／＼のやつてゐる生産戦に對して米國は全力をあげて生産戦を挑んできてゐる。太平洋を中に向ひ合ひ大軍を散らして闘つてゐるのである。この事實を見、感じないとしたら、この戦ひはどうなるか：私が社長として如何に陣頭指揮を取つてもお互が腕を組んで、指揮する者も指揮されるものも渾然一體、本當に一丸となつてやつていかなば：幸ひにわれ／＼の造る製品は直接前線の戦果に役立つてゐる。これは最も光榮ある我等の任務である」

三菱重工業の總帥郷古澤社長は麾下全勞務者に烈々の言をもつて懸へかけるのだ

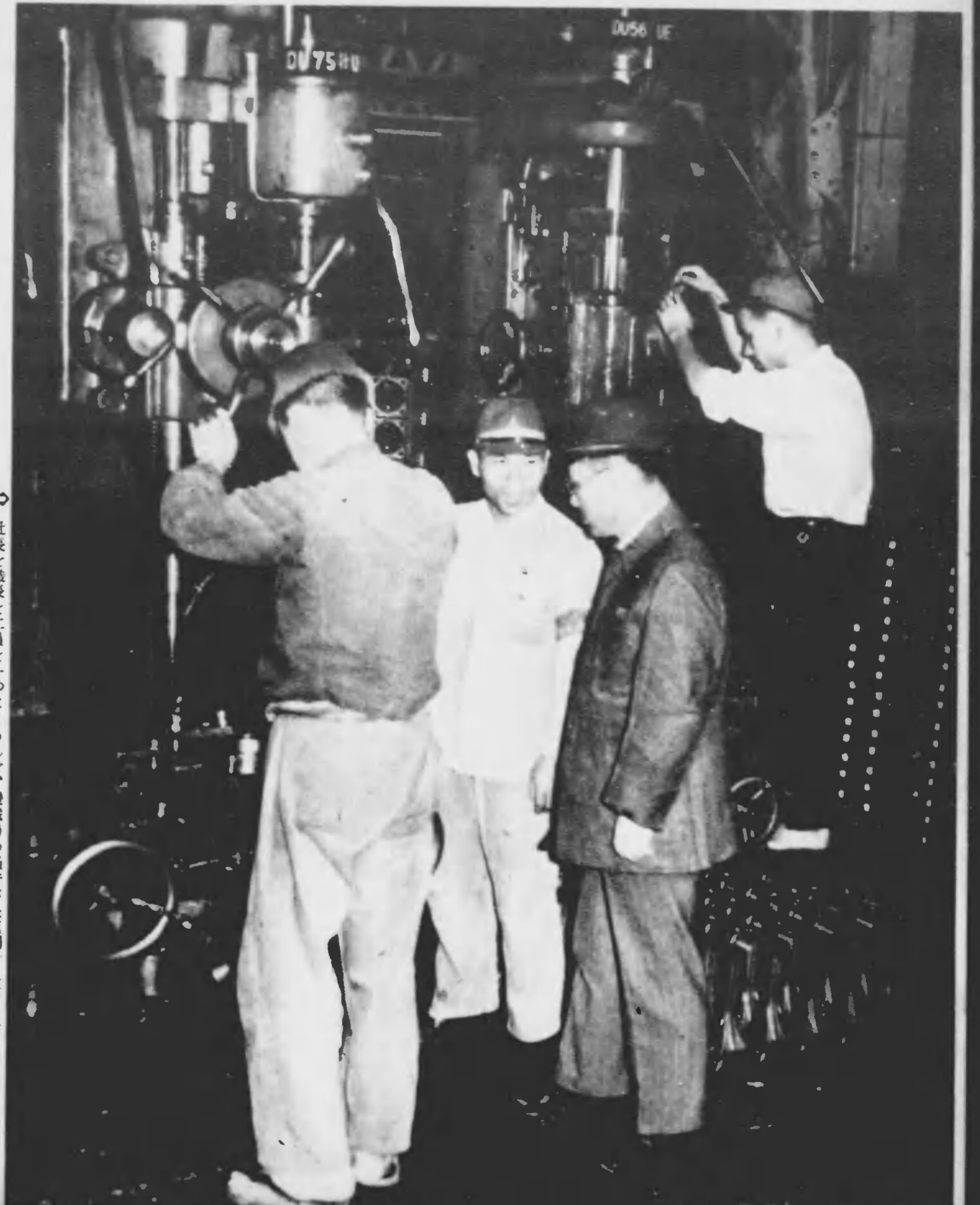
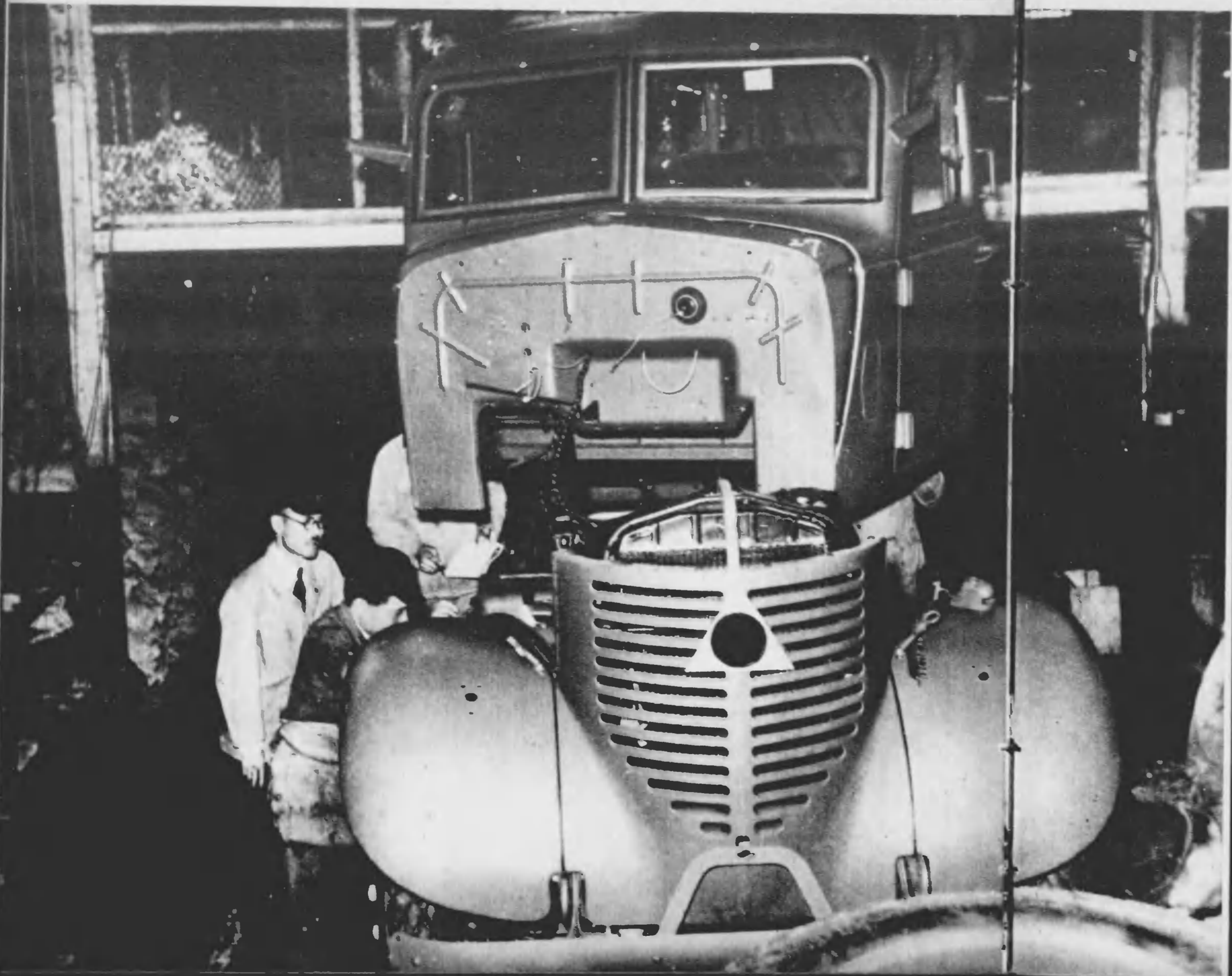
社長を陣頭に

軍需重工業



社長 古 郷

社 會 式 株 業 工 重 菱 三
所 作 製 器 機 京 東



社長を陣頭に工員を一つにくるんで、機械場の轟音が快速調で生産日本の進軍譚を奏でる



片倉製絲社長 片倉太郎氏
市宮大縣玉埼 社會式株績紡絲製倉片

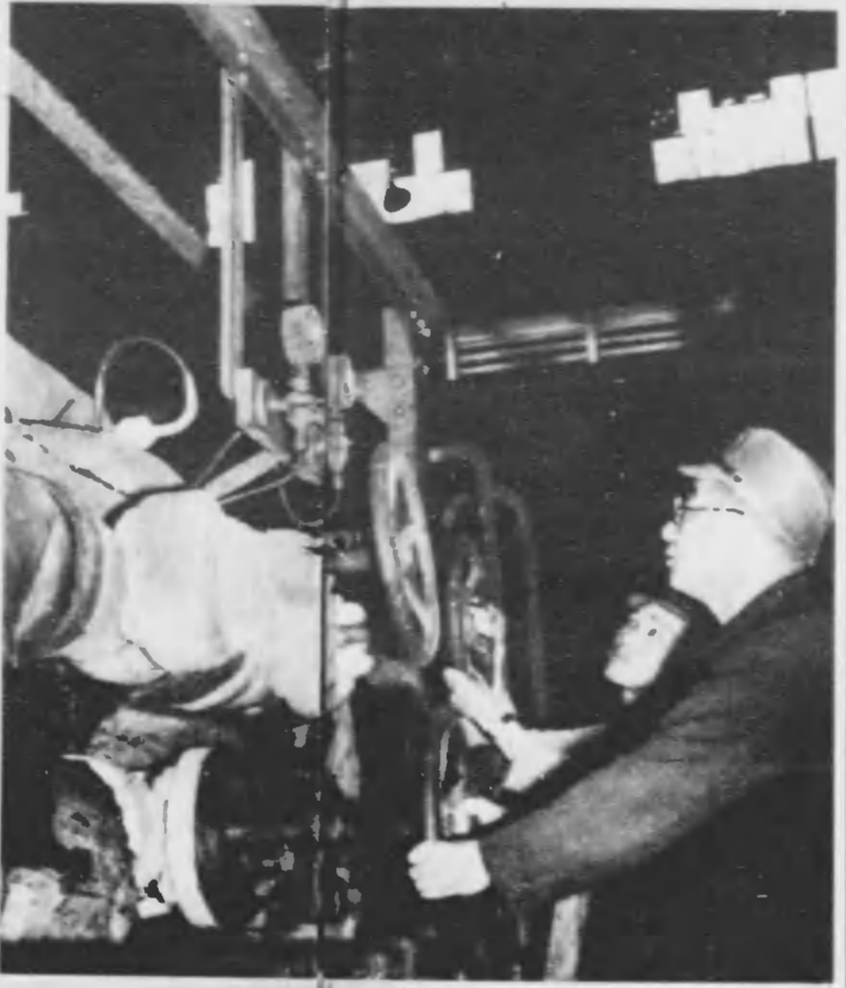
社員を陣営に
はずむ紡織機

片倉製絲の社長片倉太郎氏は生れ落ちた時からの職人だ。それだけに熟とまごころをもつてふだんに従業員を訓練し、また従業員の創意と工夫は十分にこれを尊重した。

まだ日本の蠶絲界がアメリカ娘の御機嫌とりに憂身をやつしてゐた當時から『絹の實用化』の研究をはじめたのも、社宅、寄宿寮を完備して『家庭と職場の一體化』を實現したのも片倉氏であつた。



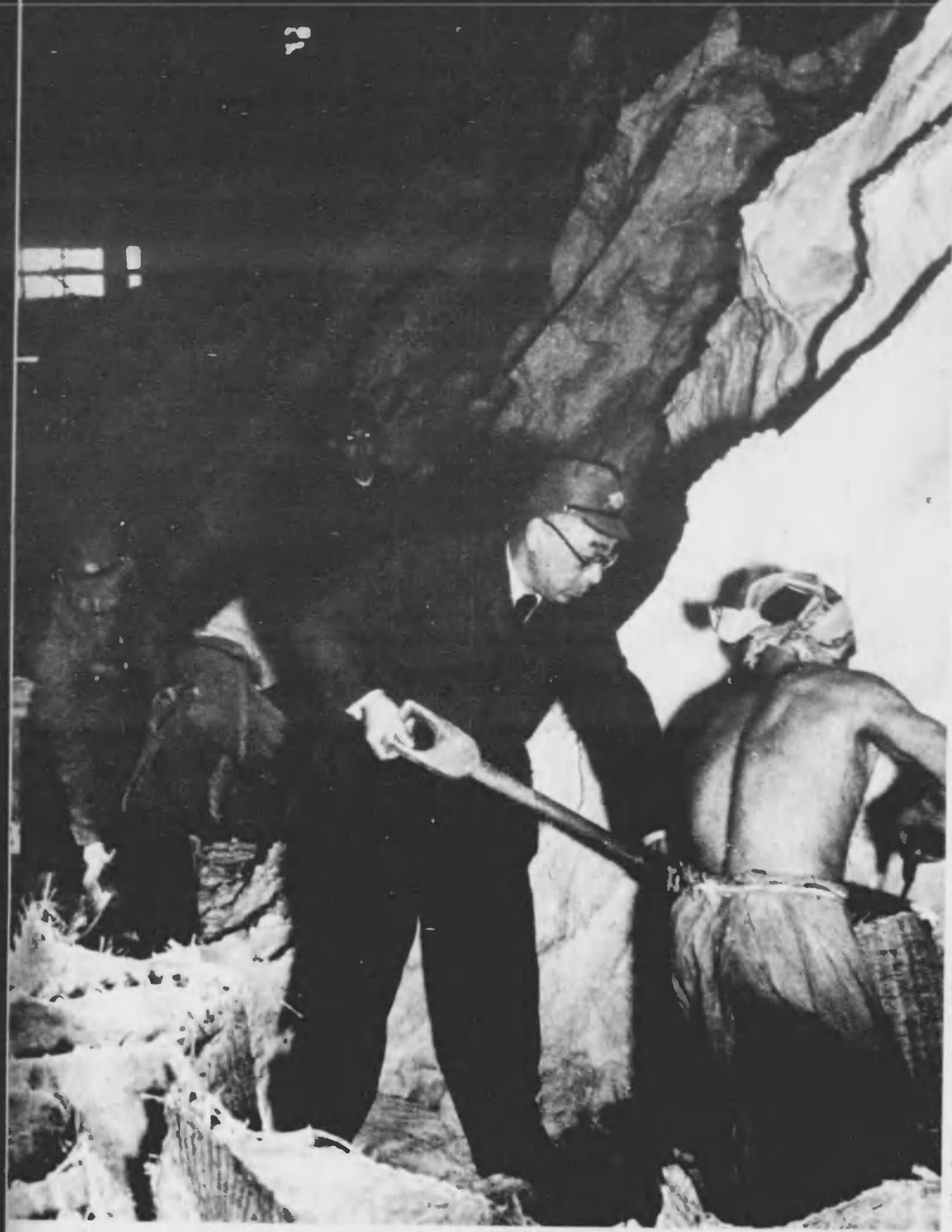
右 務常山横
市崎川縣奈神
左 務専渡石
社會式株工電和昭



『どうだ君、工合はいいか』「ハッ！非常に好調であります」空糸分繰機のメーターを見上げる事務



『ホウ積んだナ、危くないか』配車へ親心を配る片倉さん
撮影 上條春華



社員を陣営に
硫安の山

『一粒の米や麦がいかに大切であるかといふことをしみじみ感じると同時に、私たちは一握りでも多くの肥料を造つて食糧増産の手助けをしなければと自覚してゐます。』

かういふことはただ口先ばかりで、従業員にやれ〜といつても能率はあがりません。上からの意圖と下から盛り上げるものがびつたり合つてこそはじめて増産が遂げられます。』

かういひながら石渡吉治専務と横山武一常務は同社川崎硫安製造工場を率先一汗を流した。

空気を原料としてとれた硫安肥料の山、『よし他に貸してみろ』と取り上げたシャベルを純白の硫安にサクサクと打ち込む快適な感觸は重役室のデスクでは味はへない。

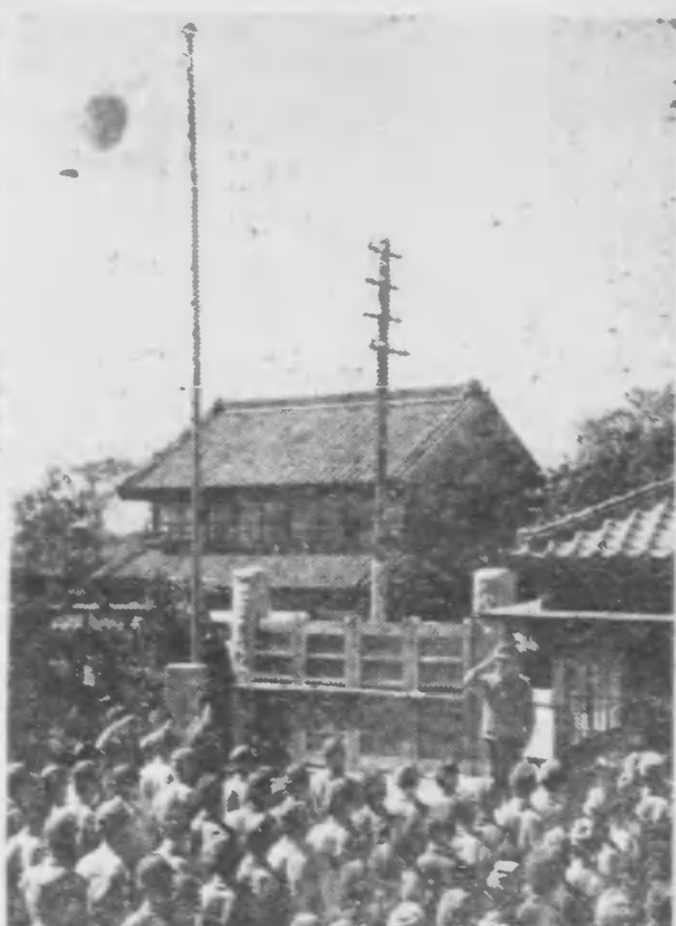


うなる延圧機

平田工業株式会社 東京市足立区
平田社長

社員を陣頭に

「この新機の下には、
だれも打込んだり
今日も始まる」



「新機の下には、
だれも打込んだり
今日も始まる」

「第一本で今日の
延圧機を完成させた社長
の平田源七氏は今日
でもなほ「社員」とも
に現場で油にまみ
れて製作に力をこめ
ることもある。その
熱と意気は社長から
熟練工に、少年工へ、
派々と傳はつて、一
人の轉向者もなく、
打つて一丸、兵器の
生産にベルトはうな
まこと、こゝに溢れ
るものは「事業」一
のたくましい工場精
神の開拓なき爆発だ



社員を陣頭に 軍需精密器

浦田社長



東洋時計株式会社

埼玉縣上尾町

「氣候の變り目だから
風邪をひかないやう注
意して下さいよ」調
も型破りで、痒いとこ
ろに手が届くやう

この工場の特異な
點は、これを統率し
てゐる浦田竹次郎社
長が、一工員から
尤いきあげた新らし
い型の産業人だとい
ふことにある。浦田
氏にとつて陣頭指揮
は既に長い間、ごく
自然な實踐だつた。
工員たちも浦田氏を
慈父の如く慕つてゐ
る。一つの工場が一
つとつと團結する一
能率増進はまづこゝ
から始まるのだ

製造室にとびこむと、
早速新しい工作機械
の設計になくれとな
く指導だ

體驗が何といつても
のをいふ。注意には一
言も無駄がない。だ
から聴く方も一生懸命





社長 森 茂

野田石油株式会社、千葉県野田町

社長を陣頭に

自給増産

「森さんに負けるな」と、増産の音頭は社長、常務の楯の音とともに



社長 五 島

東京急行電鉄株式会社、東京都渋谷区

社長を陣頭に

戦時輸送陣



生産は急激に不足し、戦時輸送陣に頼る。戦時輸送陣は、一刻を争って、足、足、交通機関に生産擴充に伴ふ重要な問題だ。東京市民の足の一半を受け持つ東京急行電鉄でも、五島社長が自らホームに立ち迅速に、回滑に親切に、新しい運轉に懸命の拍車をかけてゐる。

特殊の時間には、上衣を脱いで、汗を拭き、あつぱらに頭をうなだせて、苦悶の表情を浮かべてゐる。青年車掌を志す。



かつてわが國にも、勞資が極度に對立した時代がありました。この旋風に私共の社もまき込まれたとき、當時の茂木社長は、十七工場全員と共に自ら籠城して、生活必需品たる醬油の生産を確保したものです。この一つの飯を食へ合つて生れた社長以下幹部と工員の一致團結こそ、あそこに掲げてある會社の指導精神「産業魂」の根本です。と常務取締役茂木佐平治氏は醬油の樽を背に自信にみちて語るものであつた。





千代田機械株式会社 代表取締役 千代田 重成

社長を陣頭 山なす軍靴

「われわれの作つてゐる軍靴は隊長さんの歩く足だ。この工場が戦争に突入してゐる以上、社長が隊長として陣頭に立つのは當然だ」と告げてゐる千代田社長は、だから門衛に立つて出勤工員の検閲もやれば工員と同じ釜の飯も食ふ。作業場では製靴工と一緒に働いて見分けのつかないことも一再ではなかつた。この陣で示す社長の覚悟に工員たちが驚かされぬ筈はない。「社長に負けてはならない」といふかそれと合言葉にみんな全力を傾ければ、けふも工場はカーキ色の逞しい軍靴の進軍だ。

「旅行中欠欠池」



重成も工員と同じ釜の飯を食へる例。まこと産業一家の計じこ



働く熱意を分かちあつてラジオ演説もみんな一緒に

重成さんの汗の指令をのせて軍靴の進軍がうちつやく



南方離着陸記

(上) 竹田光次 撮影と記事



二〇〇基地におけるわが重砲連隊

飛行機の時代

東洋を飛行機で飛んで出せばその日の夕方には台北に着ける。飛行距離にして一寸六百里位になる。全く早いのは驚く。それに乗物のうちで一番乗り心地がよい。本日も飛行機は、字を書ける。一日の事務が飛行機に十分できる。しかも降りて直ぐに次ぎの仕事が出来る。汽車や船だと長い旅の後には頭がフラフラすることがあるが、飛行機には悪い天候の時でない限りそんなことはない。飛行機では天候をよく調べ、発動機の調整も十分済んでから飛行することにしてゐるから、定期航空には事故が殆んどない。寒帯から熱帯に亘る大東洋も飛行機で旅したならば何のことはない。佛印、比島へは一日、昭南やビルマなら三日、ジャワなら四日、東京から行ける。将来は東京、昭南間を二晩がけで往復する輸送機が出来たらう。十箇師團でも二十箇師團でも飛行機で、北に南に、西に東に、自由に兵力輸送が出来るとなれば、自由な戦争も非常に容易にならう。船の必要も南方へ行けば行くほど痛感するが、飛行機がもつと、否うんと欲しいなと感じたことはしばしばである。日本も偉大になった。しかしなほ、我等は大いに努力せざるべからずとは南方飛行旅行をしての感である。

南方の暑さ

我々は寒いことを一應征服した。シベリア出兵や滿洲事變で零下四、五十度、昔まで凍る前線の野に生活したこともある。しかしその反対に、暑い方が初めてである。もつとも我々の祖先はその昔、八幡船で南洋を航したから祖先に對しては威張る資格はないが、我々としては初めての経験である。

治安の現況

滿洲事變でも支那事變でも華々しい戦闘のものよりも戦後の治安といふことが何時も問題になつて、先づ何よりも先に治安の話が出たが、今度の南方作戦では今までのやうな苦勞がない。現地の住民は皆善良である。支那のやうなことはないといへる。しかし、治安について全く心配無用かと



二 笑面を賣るインドネシア人の屋敷店



三 ハントンのわが〇〇宿舎

いへばさうではない。現にフィリピンでは今なほ敗殘兵が諸所にうろついて良民を苦しめてゐるので、わが軍は盛んに掃蕩戦をやり、警備も厳重になつてゐる。七月だけでも百名近くの前線死者が出てゐるとのことであつた。またビルマの原野にも同様、若干の前線死者が出てゐる。またインドや重慶の方からも時々敵機がやつて来る。しかしこれらわが軍の活動によつて日と共によくなつて來てゐる。

日本軍の現況

南方各地に駐屯するわが軍隊がどんな生活をしてゐるかを出来る限り見て廻つた。各地の軍隊は皆元氣旺盛で、生活状態は内地における時と餘り變りがないといへると思つた。現地の軍隊はいろいろな建物を使つてゐる。しかし兵營としてのあつらへ向きのものは極めて少い。ために團々の點で不自由なことがある。戦場だと思へばなんでもないことであらうが、永く駐留には決して良い設備とはいへない。例へば向ふでは暑いから寝蓆が必要であるが、それが少いので學校の机のやまなものを裝束代りに使つてゐるのをしばしば見た。それに内地から持つて行つた敷物をかけて寝てゐるだけである。

兵事の方はところによつて普通か、または良いやうに思はれた。米は東京邊で食ひ慣れたまの外米である。肉は内地よりも豊富にある。魚も相當ある。奥地に勤務する部隊を除いて、食ひ物は餘り不自由ないといへる。警備に勤務する衛兵、歩哨も皆元氣に勤務してゐる。暑いからえらいだらうと訊ねると、皆暑いには飽きらないと云つてをうた。衛兵所、哨舎もみな野戰風に造られたものはかりで、それに勤務が

激しいのでなか／＼容易なことではない。バタン半島の戦場を見に行つた時でさつたが、全くの山の中に長以下し、八名の下士哨が警備に服してゐた。聞けば数日前、同隊が十名ばかりで警備してゐたところを襲撃したとのことで、緊張してゐた。何も無いバタンの山中である。携行してゐたバナナを食料品として喰つたが、皆喜んでゐた。全く苦勞がなくて感謝の念が湧いた。軍部隊の演習の出来るやうなところは所々ない。しかし、時々演習をやつてゐる部隊を見た。昭南でとき／＼重演習をやると車馬がなくなるの笑話もあつた。休みの日には外出が出来ない。しかし南方の各地とも日曜日は一般に商賣をしない。従つて兵隊さんの楽しみも少いことになる。軍では各地に立派な休憩所を設け、遠征の將兵を慰めることにしてゐた。先般、日新聞の派遣した慰問團は各地で將兵の懇談を博した。そのために「遺骨を抱いて」の歌は昭南を中心に大流行してゐた。大きに軍隊の病氣の方はどうかといふに、病人は非常に少い。デング熱は大抵のものが一、二度罹つたと云つてゐた。デング熱は四十度近い熱が一週間はかき、足腰の関節が若干痛むさうだが、それで自然に治つてしまふ。二回目からは痒つても輕いとのことである。特別に不潔なところへ行かない限り病氣に無暗に罹るやうなことはない。

車馬の方も餘り内地と變つたことはない。馬糧は糧を使つてゐた。一般に馬の發育は良いとのことである。かやうに述べると南方の軍隊は全く香氣さうであるが、目下、東方の大海において奮戦してゐる部隊が、ビルマ、雲南國境を守る部隊があるのであつて、將兵皆しく長期戦の覺悟を



新穀感謝の念を深めませう

新穀は瑞穂の國とよばれ、世々わが國民は米を糧として生活を営んできました。豊くも天照大神は、天孫御降臨の時、永遠に繁栄ゆく日本民族の食糧のことに思ひをいたされて、齋庭の稻穂をお授けあらせられ、この稲穂が、御歴代天皇の御丹精により、今日なほ私たも國民の食糧となつてゐるのであります。海に長ききほみではありますせんか。

二十三日の新穀祭は、戦時下に生産された本年の新穀を天皇陛下御親ら天照大神をはじめ、天孫御降臨に供へ給ひて、神々と御共にきこしめさせ給ふいとまの御慶な祭儀であります。そこでこの日を中心に全國一斉に新穀感謝の行事が行はれます。お互に一粒の米にもこもつてゐる有難い御恩、皇恩に感謝し奉り、今年の豊作にも心を凝めず、いよ／＼食糧増産の念を深め、さらに食糧増産に邁進すため次ぎの事項を實行いたさせよう。

食糧増産と供出に努めませう

農家は自家保存などのほかは全部政府に供出し、今年の新作の有難い美を飾りませう。各種の割當量は必ず付付しませう。

肥料の増産に努めませう。落穂拾ひも徹底しませう。

や食べ方などに工夫をこらし、できるだけ節約を出さないやうに努めませう。

食糧は完全に咀嚼して十分栄養分を吸収しませう。

食糧・食後は必ず感謝の言葉を捧ぎませう。

生鮮食品の消費はお互に感謝の心持でよくゆめわたるやうにさせよう。

燃料と電気の消費節約に努めませう

燃料と電気は戦時生産の原動力で、各家庭でもできるだけ節約して、生産力増進や、国防上必要な方面に回させよう。

このため燃料については十一月十六日から一週間、全國一斉に節約運動が行はれます。また十一月一日から電気の消費量が買電され、一定の限度以上に電氣を使ふと時に高い料金を拂ふことになり、場合によっては電氣を止められることもあります。



燃料の節約に努めませう

ガス・ストーブはマッチをすつてから開くこと。鍋は香味をおぼせ、ガス器具の手入れを怠らぬこと。ストーブの煙管を掃除して、煙量をさらに節約すること。

木炭・割當量から毎日の消費量を割りだし、計画的に使ふこと。水風のあるのは損、よく乾かし使ふこと。残り火は必ず火消し、薪炭は火鉢の炭の下へ、横炭をよく乾かし使ひ、炊事用ストーブ用風呂用など、用途によつて取用するものを使ふこと。豆炭・コンロなど使ふ場合は、炭を八分目にして通風をよくすること。高熱の時に炊事に利用し、そのあとは採暖用か、火消し器へ。

薪・薪ストーブと不経済、小さく割ることも不経済です。

電氣の節約に努めませう。

電燈の使用限度を守りませう。各家庭(営業用を除く)で一箇月に使用できる電力量は十燈までは二十五ワット時で、十燈を超える場合はその一燈につき一キロワット時を加へたものです。この使用限度を厳守すること。電燈の工賃をしませう。用いたときや、寝るときは必ず消電。電球や蛍光灯の汚れをときどき掃除すること。裸電燈は不良電燈に使はぬこと。商店の電燈は走りに明るさを減はぬこと。各室や廊下には必要以上の電燈をつけないこと。時々メーターを見て電燈の使ひ方に注意して下せよ。

歐米人の生活

歐米人どもの今までの生活様式であるが、今日まで彼等は南方各地に彼等だけの樂しい社會をつつてをつた。ホテル、集會所、海水浴場、劇場等、彼等だけに作られたものであつた。彼等は朝の十時頃、自家用自動車で事務所に出勤、悠々と煙草をふかしながら事務をとり、十二時頃には一旦、私宅にかへつて妻を連れ、五時頃再び出勤、七時頃家に歸つて夫婦で散歩、九時頃夕食、その後はホテルとか集會所でダンスをやリ、映画でも見て寝るといつた工合な生活振りであつた。従つてホテルや私宅の設備は萬事至れり盡せりである。それらのすべてが今度、日本軍の占領するところとなり、日本軍の管理するところとなつた。不思議なことにはそれが皆完全にそのまゝ、といつてもよい位にすべての調度品があることである。けれども、小さい家は相當疎奪されてゐるやうであるが、大きな所は一向に被害を蒙つてゐないやうである。これを金で計算したら大したもので、南方各地の敵産は正に數百億に上る莫大なものであるらう。と同時にこんな贅澤な生活をしてゐつては苦しい戦さは出来ないのも無理がない、とつく／＼感じさせられた。贅澤は敵と大敵對會が立看板を出したが成程程だ。或る兵隊さんの口く、今までは東京盛にある立派な家や大きな建築物に一種の羨望を感じてをつたが、これからはもう内地へ歸つてもこんなものには驚かないぞ……(つゞく)

十一月

日	月	火	水	木	金	土
7	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

- 一日 司法記念日
- 電力の消費制限實施
- 第六回彈丸切手賣出
- 三十日まで郵便年出
- 金普及強調運動
- 三日 明治節
- 十月二十九日から十一月三日まで第十三回明治神宮國民鍊成大會および國民運動秋季國民鍊成期間
- 八日 大詔奉戴日
- 十月十五日から十一月五日まで第五回戦時貯蓄債券および戦時報國債券賣出運動
- 十六日 二十二日まで燃料運開
- 廿三日 新穀祭
- 新穀感謝祭 この日を中心に一週間新穀感謝行事が展開される
- 廿八日 國民兵實施されて七十周年

靖國神社祭典慰靈飛行
靖國神社臨時大祭第四日の十月十八日、靖國神社上空を口の丸の標識をつけて飛ぶ兩機、右はダグラスDC-3型、左はボーイングB-17型



戦友に聖鏝を捧ぐ

近衛師團
さあ、小休止だ。殿へあけられた逞しい群像



鏝を、鏝を、亡き先輩や、戦友に捧げて



『さあ、よつぷし』かつしり八人の
集合が描いて



ぐんぐん作業が進む。さすがは、と他の
奉仕團も眼をみせる

興亜の礎を築くためには、多くの將兵が大陸に護國の華と散った。帝都七百万市民が仰いで不滅の忠魂を讃ふ東京市忠霊塔は、各種團體、學生生徒などの勤勞奉仕も交へて日夜その工を急いでゐる。傷病軍人や、歸還勇士も奉仕の聖鏝を振つた。中でも目立つのは、近衛師團諸部隊勇士の協力の姿である。軍務多忙の中から今年一杯奉仕に出動することになつた近衛師團の壯舉は、忠霊塔建設に一段の光輝をそへるものであら

豊年に部落

總出の運動會

走る者も跳ぶ者も、皆んなおら連の身うちだ、見物席も競技場も渾然一體、沸きにわく歡呼の健民語

秋の健民運動が全國に展開される。第十三回明治神宮國民鍊成大會も二十九日から始まる。大東、亞戦下の秋だ、斷然、感傷に浸つてゐる時ではないぞ、こぞつて健民運動に参加しよう。われわれの強靱な肉體をより強靱に鍛へ上げるために、街にも野良にも、がつしりとした健民群像を築き上げよう

一億の逞しい肉體と昂揚された意氣を動員して、秋の健民運動が全國に展開される。第十三回明治神宮國民鍊成大會も二十九日から始まる。大東、亞戦下の秋だ、斷然、感傷に浸つてゐる時ではないぞ、こぞつて健民運動に参加しよう。われわれの強靱な肉體をより強靱に鍛へ上げるために、街にも野良にも、がつしりとした健民群像を築き上げよう

ラジオ體操勿論よい、武道、相撲、野球、健歩、綱引等々何んでもよい、部落全體、町全體、老若男女もれなく参加しよう

豊年の歡びにどつと沸く農村、長野縣南佐久郡平賀村、荒船火山の熔岩基底にあたるこの村では、村民總

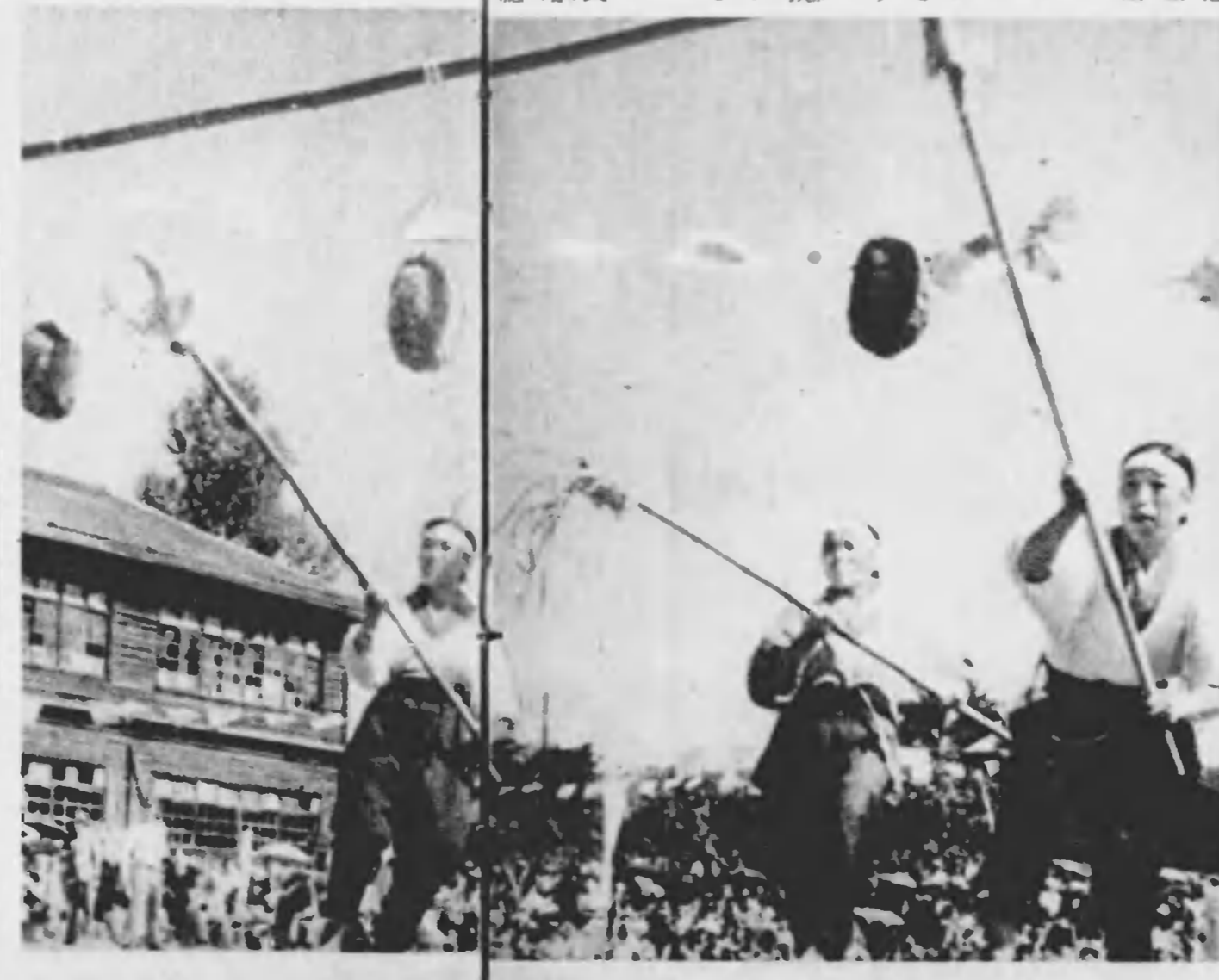
力で作り上げた貯水池によつて多年の水不足を解消し、未曾有の豊作を得た農民達の歡び、この感激を部落總出の常會運動會にうつして和氣あふく裡に健民の一日を送つた

眞誠敢闘、不屈な農民魂、前線の息子達にも見せてやりたい頑張りだ
主婦敢闘、焚夷彈ならもつと張りきるんだげん
農繁期中みんなの留守を護つた殊勲の老人部隊も今日は息子の引くりヤカーに乗せられて會場へ



撮影 福忠次

村長さんも、先生も、農會長さんも、本家の娘も分家の娘も、興奮と入場式



大東亞戰爭漫日誌
川石 介進



戰時非常非常非常



陸軍特使命から



我が國の石油を海外に運ぶ



人々を感動させる英の丸は



女中學校卒業生時産門



英米海外法援助を要する



社長さん頭へ



社長さん頭へ

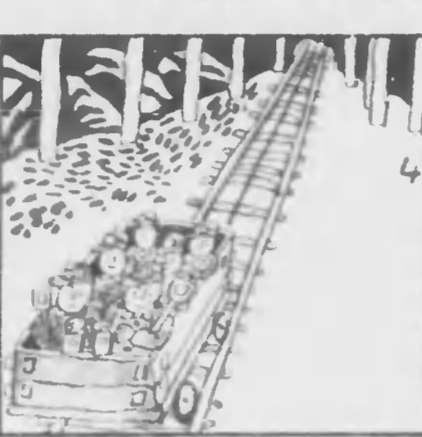


社長さん頭へ

社長さん頭へ... (Text describing the comic panels)



社長さん頭へ

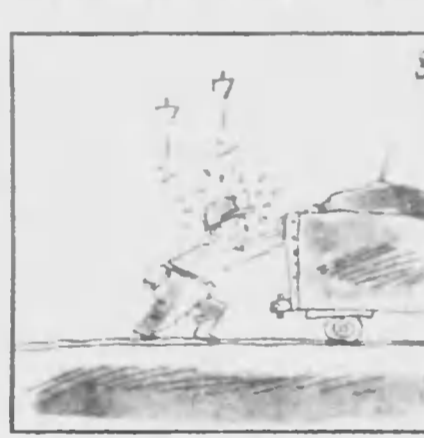


社長さん頭へ



社長さん頭へ

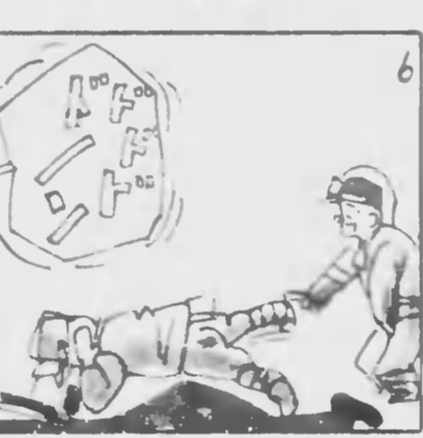
社長さん頭へ... (Text describing the comic panels)



社長さん頭へ



社長さん頭へ



社長さん頭へ

社長さん頭へ... (Text describing the comic panels)



社長さん頭へ



社長さん頭へ



社長さん頭へ

社長さん頭へ... (Text describing the comic panels)

本誌を購読し、送料は別にお知らせいたします。送料は別にお知らせいたします。

定価 一部十銭 (送料一銭)
 (外貨郵送に依る地域)
 (送料別) 郵送料は別にお知らせいたします。

昭和十七年十月廿八日印刷
 発行所 内閣印刷局
 東京市豊町

★表紙
 夜ぞらに火花がパツ、パツと散って、増援の影が大きい。米英やつきの運船が浮き、向ふに燃えて日本の結果はどことでも遠く散らされてしまふ。我々はハンマーを振り、増援を叩いて米英の工員どもと闘ふのだ、負けてなるものか。社長も重役も工員もこの戦場の戦場で死ぬのだから、大日本産業報編輯部

華北治安の宣傳自動車



漢々たる砂塵をあげて疾走してきたトラックが〇〇部落で停車すると矢面に美しい音楽を奏し始めた。男も女も老いも若きも子供も皆がひびきはしたやうに集つてくる。こんどの秋季冀東作戦に呼應して、共匪の毒手に炭の苦しみは味はひつゝあつた部落民たちに優しい宣傳の手を差延べるべく、わが宣傳自動車は華北治安の強化に大活躍をつづけてゐるのだ。放送は何十回となく繰返された。そして集る部落民の心と心に、暴逆共匪の恫喝も自身の手で掃ひ斥け、新生中國の一員として輝かしい明日の華北を建設すべき固い決意を植あつけ、宣傳自動車は再び大きな〇〇部落へ、響の弾丸を轟轟と走り去つてゆくのだ。



北支軍報連部資料
 北支軍報連部の指揮する
 わが宣傳自動車



盤龍城内における宣傳隊の活躍
 宣傳隊の活躍

復習室

本報からあなたは何を學んだか。
 1 國民皆兵が實施されて今年は何年になりませうか。五十周年、七十周年、百周年、
 2 南方の稲作には鑑境期がありませぬ。何故でせう。(14頁)
 3 ガスが最も高熱の時は、炭が色を帯び、赤が赤いときです。(16頁)
 4 材木屋に行つてみたら年輪のない材木がありました。どの方面からきたものでせう。(14頁)
 5 十一月一日から夜とくに氣をつけねばならぬことがありますが、は何でせう。戸締り、火の元、煙火管制、電力消費、野火の横行。(16頁)
 6 硫安肥料の原料は、特土、海水、木村、甘菜、茶葉、空気が、木村。(17頁)
 7 十一月二十三日は新嘗祭であつて、〇〇〇〇祭の日です。(17頁)
 8 アメリカの生産擴充計畫の中に大きな数字が掲げられてゐますが、この数字は各何を造るといふのでせう。七十五万、一千五百万、七十五万。(17頁)
 9 航空便で東京を飛出せば錦印比島へは〇日、昭南、ビスマラは〇日、ジャワなら〇日位でゆけるでせう。(14頁)
 10 新なるべく、小さく割ると、一問十點としてあなたは何點でしたか。(16頁)

高真週報
昭和十七年十月十日
郵政省認可
昭和十七年十月廿八日發行
（第一）
（第二）
（第三）
（第四）
（第五）
（第六）
（第七）
（第八）
（第九）
（第十）
（第十一）
（第十二）
（第十三）
（第十四）
（第十五）
（第十六）
（第十七）
（第十八）
（第十九）
（第二十）
（第二十一）
（第二十二）
（第二十三）
（第二十四）
（第二十五）
（第二十六）
（第二十七）
（第二十八）
（第二十九）
（第三十）
（第三十一）
（第三十二）
（第三十三）
（第三十四）
（第三十五）
（第三十六）
（第三十七）
（第三十八）
（第三十九）
（第四十）
（第四十一）
（第四十二）
（第四十三）
（第四十四）
（第四十五）
（第四十六）
（第四十七）
（第四十八）
（第四十九）
（第五十）
（第五十一）
（第五十二）
（第五十三）
（第五十四）
（第五十五）
（第五十六）
（第五十七）
（第五十八）
（第五十九）
（第六十）
（第六十一）
（第六十二）
（第六十三）
（第六十四）
（第六十五）
（第六十六）
（第六十七）
（第六十八）
（第六十九）
（第七十）
（第七十一）
（第七十二）
（第七十三）
（第七十四）
（第七十五）
（第七十六）
（第七十七）
（第七十八）
（第七十九）
（第八十）
（第八十一）
（第八十二）
（第八十三）
（第八十四）
（第八十五）
（第八十六）
（第八十七）
（第八十八）
（第八十九）
（第九十）
（第九十一）
（第九十二）
（第九十三）
（第九十四）
（第九十五）
（第九十六）
（第九十七）
（第九十八）
（第九十九）
（第一百）
（第一百零一）
（第一百零二）
（第一百零三）
（第一百零四）
（第一百零五）
（第一百零六）
（第一百零七）
（第一百零八）
（第一百零九）
（第一百一十）
（第一百一十一）
（第一百一十二）
（第一百一十三）
（第一百一十四）
（第一百一十五）
（第一百一十六）
（第一百一十七）
（第一百一十八）
（第一百一十九）
（第一百二十）
（第一百二十一）
（第一百二十二）
（第一百二十三）
（第一百二十四）
（第一百二十五）
（第一百二十六）
（第一百二十七）
（第一百二十八）
（第一百二十九）
（第一百三十）
（第一百三十一）
（第一百三十二）
（第一百三十三）
（第一百三十四）
（第一百三十五）
（第一百三十六）
（第一百三十七）
（第一百三十八）
（第一百三十九）
（第一百四十）
（第一百四十一）
（第一百四十二）
（第一百四十三）
（第一百四十四）
（第一百四十五）
（第一百四十六）
（第一百四十七）
（第一百四十八）
（第一百四十九）
（第一百五十）
（第一百五十一）
（第一百五十二）
（第一百五十三）
（第一百五十四）
（第一百五十五）
（第一百五十六）
（第一百五十七）
（第一百五十八）
（第一百五十九）
（第一百六十）
（第一百六十一）
（第一百六十二）
（第一百六十三）
（第一百六十四）
（第一百六十五）
（第一百六十六）
（第一百六十七）
（第一百六十八）
（第一百六十九）
（第一百七十）
（第一百七十一）
（第一百七十二）
（第一百七十三）
（第一百七十四）
（第一百七十五）
（第一百七十六）
（第一百七十七）
（第一百七十八）
（第一百七十九）
（第一百八十）
（第一百八十一）
（第一百八十二）
（第一百八十三）
（第一百八十四）
（第一百八十五）
（第一百八十六）
（第一百八十七）
（第一百八十八）
（第一百八十九）
（第一百九十）
（第一百九十一）
（第一百九十二）
（第一百九十三）
（第一百九十四）
（第一百九十五）
（第一百九十六）
（第一百九十七）
（第一百九十八）
（第一百九十九）
（第二百）

大東亞戰爭 國債

日二月一十日二十二月十 出賣局便郵

貯蓄債券 報國債券

日十月一十日五十月十 出賣

蓄の底力！

行銀業勸・行銀本日・省信遞・省藏大

内閣印刷局印刷發行

（列位諸君）A4形規定紙は33人の買本